



令和7年度

第43回 四国地区小中学校教頭会研究大会(愛媛大会)

第64回 愛媛県小中学校教頭会研究大会(松山大会)

< 大会資料 >

研究主題

未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり

キーワード <自立・協働・創造>

～ 夢と志を持ち 絆を深めながら可能性に挑戦する子供の育成 ～



道後温泉（画像提供：松山観光コンベンション協会）

令和7年11月21日(金)

四国地区小中学校教頭会 愛媛県小中学校教頭会

目 次

主 催 者 挨 拶	1
開 催 要 項	1・2
分科会指導助言者・提言者・役員一覧	3
講 演	4
愛媛県小中学校教頭会研究主題	6・7
研究課題及び研究の視点	8
提言者及び研究主題	9
第 1 A 分 科 会	10・11
第 1 B 分 科 会	12・13
第 2 分 科 会	14・15
第 3 分 科 会	16・17
第 4 分 科 会	18・19
第 5 分 科 会	20・21
特別課題分科会	22
参 加 者 名 簿	24～31



第43回 四国地区小中学校教頭会研究大会(愛媛大会) 第64回 愛媛県小中学校教頭会研究大会(松山大会)

御 挨 拶

四国地区小中学校教頭会
愛媛県小中学校教頭会

会 長 佐伯 敬

清秋の候、皆様にはますます御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

このたび、第43回四国地区小中学校教頭会研究大会を愛媛県松山市で開催する運びとなりました。皆様、ようこそ「いで湯と城と文学のまち」にお越しくださいました。本大会の開催につきましては、愛媛県や松山市をはじめ、四国各県、各方面の教育関係機関の皆様から多大な御支援と御協力を賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

本大会は、第13期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」の3年間継続研究の最終年度となります。愛媛県教頭会では「夢と志を持ち 絆を深めながら可能性に挑戦する子供の育成」をサブテーマに掲げ、研究に取り組んでまいりました。四国各地で進められてきた研究成果や課題解決の知恵を共有し、四国の子供たちのためになる大会にしたいと考えています。また、御講演・御助言いただきます皆様には、大変お世話になります。我々教頭にいろいろな御示唆・御指導をくださいますよう、お願い申し上げます。

結びに、本大会が「四国は一つ」を合言葉に諸先輩方が紡いでこられた四国地区小中学校教頭会の発展につながることを祈念いたしまして、御挨拶といたします。

開 催 要 項

1 期 日 令和7年11月21日(金)

2 会 場 全体会場 松山市民会館
分科会場 松山市民会館 松山市総合福祉センター
松山市男女共同参画推進センター(コムズ)
えひめ共済会館

3 主 催 四国地区小中学校教頭会 愛媛県小中学校教頭会

4 後 援 愛媛県教育委員会 香川県教育委員会 徳島県教育委員会 高知県教育委員会
愛媛県市町教育委員会連合会 松山市 松山市教育委員会
愛媛県小中学校校長会 愛媛県教育研究協議会 公益財団法人愛媛県教育会
愛媛県PTA連合会 松山市小中学校PTA連合会
公益財団法人日本教育公務員弘済会愛媛支部
公益社団法人日本教育会 全国公立学校教頭会

5 研究主題

未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり

キーワード <自立・協働・創造>

～ 夢と志を持ち 絆を深めながら可能性に挑戦する子供の育成 ～

6 日 程

9:00 ～ 9:40	分科会打合せ会	〈開会式〉 (1) 開式の言葉 (2) 国歌斉唱 (3) 開会挨拶 (4) 祝 辞 (5) 来賓紹介 (6) 閉式の言葉
9:30 ～ 10:00	受 付	
10:00 ～ 10:20	開 会 行 事	
10:30 ～ 12:00	記 念 講 演	
12:10 ～ 13:30	昼 食・移 動	
13:30 ～ 15:40	分 科 会	
15:40 ～ 15:50	閉 会 行 事	

7 講 演 演 題 「アーティスト 石村嘉成のキセキ」

～ 発達障がいの子と歩いて ～

講 師 石 村 嘉 成 氏・石 村 和 徳 氏

8 分科会における研究課題

- 第1課題 教育課程に関する課題
- 第2課題 子供の発達に関する課題
- 第3課題 教育環境整備に関する課題
- 第4課題 組織・運営に関する課題
- 第5課題 教職員の専門性に関する課題
- 特別課題 講 演

演 題 「学校と地域の絆が子どもと地域の未来を創る」

～ これからの学校と地域 ～

講 師 コミスクえひめ代表理事 元文部科学省CSマイスター
西 村 久仁夫 氏

分科会指導助言者・提言者・役員一覧

講 演	講 師・演 題	記 録 者		会 場
	石村 嘉成 氏 ・ 石村 和徳 氏 「アーティスト 石村嘉成のキセキ」 ～発達障がいのがが子と歩んで～	内子町立 立川小学校 安西 純平	西条市立 丹原小学校 長谷川 大三	松山市民会館 大ホール

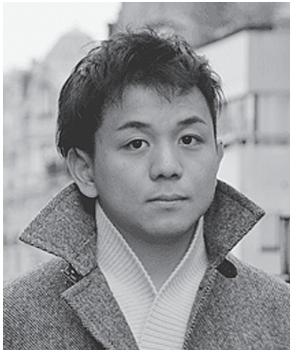
分科会	指導助言者	司会者	提言者		記録者	会 場
第ⅠA	愛媛県教育委員会 義務教育課 教育指導グループ 指導主事 中野 豪 様	八幡浜市立 保内中学校 伊東 伸也	香美市立 香北中学校 五百蔵 紀子	伊方町立 三崎小学校 加藤 知己	八幡浜市立 川の石小学校 佐々木 治彦	男女共同参画 推進センター (コムズ) 5階 大会議室
第ⅠB	愛媛県教育委員会 義務教育課 教育指導グループ 指導主事 赤松 聖則 様	松山市立 興居島中学校 藤原 和憲	高松市立 亀阜小学校 木田 英登	伊予市立 中山中学校 中塚 秀樹	伊予市立 由並小学校 松本 謙一	総合福祉センター 5階 中会議室
第 2	愛媛県教育委員会 義務教育課 教育指導グループ 指導主事 深野 基嗣 様	篠山小中学校組合立 篠山中学校 岡原 耕一郎	まんのう町立 満濃中学校 岡原 秀和	松野町立 松野西小学校 廣岡 哲也	宇和島市立 吉田中学校 泉 正人	総合福祉センター 1階 大会議室
第 3	愛媛県教育委員会 中予教育事務所教職員課 管理主事・課長 竹内 圭一郎 様	内子町立 大瀬小学校 宇都宮 克憲	吉野川市立 鴨島第一中学校 小泉 博嗣	大洲市立 平小学校 宮田 博和	久万高原町立 畑野川小学校 井上 孝一	男女共同参画 推進センター (コムズ) 5階 会議室5
第 4	松山市教育委員会 学校教育課 指導主幹 富岡 明 様	四国中央市立 三島西中学校 山下 智典	阿南市立 見能林小学校 久龍 和巳	西条市立 丹原西中学校 戸田 行宣	新居浜市立 別子中学校 間部 崇史	松山市民会館 3階 小ホール 会議室
第 5	松山市立小野中学校 校 長 篠原 康展 様	今治市立 立花中学校 八木 春樹	高知市立 江ノ口小学校 岡崎 真理子	上島町立 岩城中学校 中井 将基	上島町立 弓削小学校 志賀 良	えひめ共済会館 4階 豊明

特別課題	講 師・演 題	司会者	記 録 者		会 場
	コムスクえひめ代表理事 元文部科学省CSマイスター 西村 久仁夫 氏 「学校と地域の絆が子どもと地域の未来を創る」 ～これからの学校と地域～	上島町立 岩城小学校 友近 将道	東温市立 川内中学校 大野 小百合	愛南町立 一本松小学校 山本 雅貴	松山市民会館 大ホール

全体会講演

演題

「アーティスト 石村嘉成のキセキ」 ～発達障がいのがが子と歩んで～



■ 講師

作家

いしむら よしなり
石村 嘉成氏

愛媛県新居浜市在住のアーティスト。

1994年生まれ。2歳で自閉症と診断。自立に向けて、両親の愛情と努力、療育センターでの指導などを受けて成長。

高校は一般受験で入学。高校3年の授業で描いた版画が評価され、創作活動始める。

2013年に第2回新エコールドパリ浮世・絵展ドローイング部門にて優秀賞を受賞。

現在は、個展や講演会等で多くの人に感動と元気を与えている。

作品から石村嘉成の"ことば"を感じてください。



■ 講師

嘉成氏の父

いしむら かずのり
石村 和徳氏

1960年生まれ。愛媛県新居浜市在住。

2歳で自閉症と診断された嘉成氏の子育てに、奥様の有希子氏と夫婦で取り組む。シングルファーザーとなってからは、会社経営の激務と両立させながら、嘉成氏が高校生の時には3年間無遅刻無欠席で一緒に自転車で登下校するなど、苦闘の「療育」を続けた。

現在は、嘉成氏の個展の企画や、「療育」についての講演会にも取り組んでいる。

メモ

令和7年度 愛媛県小中学校教頭会研究主題

研究主題 「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」(全公教主題)

キーワード <自立・協働・創造>

サブテーマ 夢と志を持ち 絆を深めながら可能性に挑戦する子供の育成

1 第13期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」(令和5～7年度)

令和の時代となり、現代社会は技術革新やグローバル化の急速な進展、人口知能の進化や普及という、超スマート社会「Society 5.0」の到来が目前に迫っている。学校では、部活動の地域移行や教員不足という社会問題化している解決の難しい課題に直面している。このような将来の予測が困難な時代に、志高く未来を創りだしていくために必要な資質・能力を子供たちに育むことは、学校教育の喫緊の課題である。

一人一人の子供が、このような社会の変化に順応し、未来を切り拓いていくために、自ら主体的に行動し、他者と協働しながら新しいものを生み出し、課題の解決や改善をしていく「生きる力」を、今こそ育てていく必要がある。そのためには、私たち教頭は、社会の変化に対して柔軟にあるいは慎重に、時には迅速に対応していかなければならない。予測困難な時代だからこそ、開かれた教育課程を実現しながら、これまで以上に子供たちにとって魅力ある学校づくりを推進していくことが大切となる。

研究主題に設定した「未来を切り拓く力」とは、子供たちがこの予測困難な時代の進展・変化に対して、適切にかつ積極的に対応する力であり、自ら進んでよりよい社会や幸せな人生を築き上げていく力である。また、「魅力ある学校づくり」とは、学習指導要領前文の「よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創る」という理念を受け、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、教頭として「魅力ある学校づくり」に取り組んでいくことである。子供たちが笑顔で学校に通い、安心して教育を受けられることはもちろん、保護者や地域住民の方たちに信頼され魅力を感じていただける「開かれた学校づくり」とともに、教職員にとっても魅力ある学校づくりに取り組まなければならない。

研究主題の実現に向けて、教頭はリーダーシップを発揮するために、職務遂行にあたっての自覚を高め、自らの資質・能力を向上させるべく研究を深めていくことが求められる。教頭としての責務を果たすことができるように、3年間の継続研究を推進していく。

2 第13期の研究の重点

第13期では、子供たちに「未来を切り拓く力を育む」ことができる学校教育を目指し、全国共通研究課題である「教育課程」「子供の発達」「教育環境整備」「組織・運営」「教職員の専門性」「副校長・教頭の職務内容や職務機能」の六つの点から研究を深めていく。

研究主題に関わる「未来を切り拓く」資質や能力は、第12期においても示されており、それを育てていくことを継続する。人との絆を大事にし、自分の個性を生かしながら自ら考え行動し、他者と協働しながら現状を打破する力や、リーダーシップやチームワークを発揮し、新しい価値を生み出す力を育成することを重視していく。

また、「魅力ある学校づくり」では、社会に開かれた教育課程の実現に取り組むだけでなく、新しい時代に向けた持続可能な教育活動・学校運営体制を構築するため、学校における働き方改革の着実な具現化に取り組むことも重要である。

研究を推進する上で、研究主題だけでなく「自主・協働・創造」のキーワードにも関連を図る必要がある。私たちは、子供たち一人一人が多様な個性・能力を伸ばし(自立)、個人や社会の多様性を尊重し、共に支え合い高め合いながら(協働)、新たな価値を創造していく(創造)ことのできる資質・能力の育成を目指している。

そして、令和5年度から令和9年度の第4期教育振興基本計画が閣議決定され、「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」という二つのコンセプトが示された。ここで示された内容は、第13期の研究に結び付けていかなければならないと考える。

3 サブテーマ「夢と志を持ち 絆を深めながら可能性に挑戦する子供の育成」

(1) 【夢と志を持ち】とは

子供が将来目指したい理想や目標を持つなどの「夢」を抱き、よりよい自分やよりよい学級・学校・地域社会を創ろうとする意欲や態度、すなわち「志」を持つことである。同時に、子供

を見守る全ての人の夢と志も指し、子供の成長に関わる学校・家庭・地域が一体となり、「チーム学校」となる願いを込めている。そのためには、「社会に開かれた教育課程」の推進とともに組織マネジメントが鍵となると考える。

(2) 【絆を深めながら可能性に挑戦する子供】とは

人生100年時代における予測困難な変化の激しい社会の中にあっても、輝く未来社会と自分を信じながら、粘り強く可能性に挑戦し続けていく自己実現を目指す子供と捉える。同時に予測困難な場面に対応するためには、自他を信じ共に認め合い、高め合って絆を深め、協働しながら挑戦し続けることが重要となる。

このような子供たちを育成するには、今後一層、学ぶことと社会とのつながりを意識し、知識の質・量の改善に加え、学びの質や深まりを重視した学習を着実に実施していかなければならない。また、子供たちに集団への適応や協調を基盤にした社会性や人間性、豊かな心と健やかな体を育てながら、よりよい生き方や考え方を培っていくことが重要であると考ええる。

4 私たち教頭は

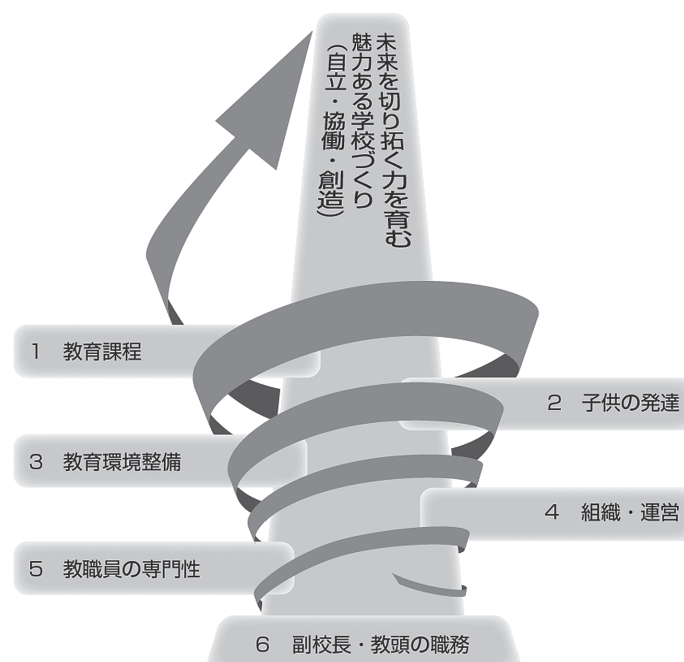
私たち教頭は、「夢と志を持ち 絆を深めながら可能性に挑戦する子供」を育てていくために、教職員の意欲の喚起や資質・能力の向上に力を注ぎ、学校教育の活性化と変革を目指していかなければならない。また、我が国の教育の質を維持、向上し続けるためには、教職を目指す優秀な人財の確保・育成が必要である。そのためには、未来を切り拓く子供たちを育てる教育という仕事の責務と魅力を、我々教職員が適切なワークライフバランスにより目の前の子供たちにしっかりと向き合い、生き生きと働く姿で働きがいを発信していくことも重要である。

5 研究の推進方法

研究の推進に当たっては、引き続き継続性、協働性、関与性の3本の柱（3C）を重視する。

- 継続性—— 教頭会組織に改編があっても、これまでに解明されたことは何か、残された（Continuity） 課題は何かを踏まえた問題解決型の研究を継続的に進める。
- 協働性—— 各郡市の全教頭による協働研究を基本とし、教頭としての同僚性を発揮しながら、開かれた関係において協働的に進める。発表内容は、提言者の学校に関わる内容が中心になる場合であっても、組織に属する全員の研究を持ち寄ったり、各校の実践を互いに取り入れたりするなど、組織的に分担、協議し、研究を深めていく。
- 関与性—— 教頭として何をすべきか、どうあるべきか、どう関わるべきかを念頭に置き、（Commitment） 各郡市教頭会の課題を明確にし、勤務校での自らの職務遂行や校内研修の課題に関わらせ、そこで得た成果や課題を各郡市教頭会に反映させつつ研究を進める。

6 第13期全国共通研究課題の構造



令和7年度 研究課題及び研究の視点

分科会	研究課題	研究の視点
I A I B	教育課程に関する課題	○ 信頼される学校づくりに資する「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価・改善に関すること（カリキュラム・マネジメント） ○ 教育目標の設定と具現化に関すること ○ 教科等横断的な視点に立った資質・能力に関すること ○ 教育課程の実施と学習評価に関すること ○ 幼・保・小・中・高・特別支援学校の連携に関すること ○ 小中一貫教育・中高一貫教育に関すること ○ 家庭や地域との連携及び協働に関すること
2	子供の発達に関する課題	○ 確かな学力の確実な定着に関わること ○ 児童生徒の豊かな人間性の育成に関わること ○ 児童生徒の健康・体力の増進に関わること ○ たくましく未来を切り拓く力やこれから求められる資質・能力の育成に関わること ○ その他、児童生徒の発達を支える教育課題に関わること
3	教育環境整備に関する課題	○ 児童生徒の安心安全に関すること ○ 学校の施設設備に関すること ○ 学校、家庭、地域との連携と協働に関すること ○ 学校規模適正化に関すること ○ 文書事務、経理事務の管理に関すること ○ 教育DXを推進する取組に関すること
4	組織・運営に関する課題	○ 学校運営全般に関すること ○ 人材育成や組織力向上に関すること ○ リスク管理や危機管理に関すること ○ 地域連携（コミュニティ・スクールなど）に関すること ○ 異校種間連携に関すること ○ その他、組織・運営に関すること
5	教職員の専門性に関する課題	○ 教職員の専門家としての意識高揚に関すること ○ 教職員の指導力等の育成に関すること ○ 教職員の研修に関すること ○ 教職員の服務に関すること ○ 学校段階間連携を通じた、教職員の課題意識の向上に関すること ○ 教職員の協働体制の構築に関すること ○ 教職員の学校運営参画意識の向上に関すること

令和7年度 提言者及び研究主題

分科会	提 言 者	研 究 主 題
I A	【高知県】 香美市立香北中学校 五百蔵 紀子	「特色ある学校づくりの推進と教頭の関わり」 — I B教育でつなぐ学びと地域との連携を通して —
	【愛媛県】 伊方町立三崎小学校 加藤 知己	「伊方町の良さを生かした、活力ある学校づくりを目指して」 — 学校間交流・地域人材の活用を通して —
I B	【香川県】 高松市立亀阜小学校 木田 英登	「家庭・地域と協働した学校教育活動を推進するための教頭の役割」 — 学校運営協議会と地域学校協働活動を通して —
	【愛媛県】 伊予市立中山中学校 中塚 秀樹	「家庭・地域との連携及び協働における教頭の役割」 — 特色ある地域資源の活用や異校種間連携の取組を通して —
2	【香川県】 まんのう町立満濃中学校 岡原 秀和	「自立へ向かう子どもを育てる学校づくり」 — 子どもに関わる環境や人をつなぐ教頭の役割 —
	【愛媛県】 松野町立松野西小学校 廣岡 哲也	「教頭の視点による子供のウェルビーイングを支える教育アプローチ」 — 健康・体力の増進と家庭・地域との連携 —
3	【徳島県】 吉野川市立鴨島第一中学校 小泉 博嗣	「地域との連携・協働推進に向けた教頭会としての役割」 — 地域課題の解決に向けた教育環境体制づくり —
	【愛媛県】 大洲市立平小学校 宮田 博和	「安心・安全な教育環境の整備と対応の充実を図るための教頭の役割」 — 大洲市教頭会の取組を通して —
4	【徳島県】 阿南市立見能林小学校 久龍 和巳	「魅力ある学校づくりのための幼小連携」 — 子供の育ちと学びをつなぐ —
	【愛媛県】 西条市立丹原西中学校 戸田 行宣	「『未来を切り拓く力を育む魅力ある学校づくり』を目指した 学校組織の運営と教職員のウェルビーイングの向上」 — 働きがいがあり、誇りを持って児童生徒に向き合える職場環境の形成 —
5	【高知県】 高知市立江ノ口小学校 岡崎 真理子	「協働体制の構築と教頭の役割」 — 支え合い、学び合う学校を目指して —
	【愛媛県】 上島町立岩城中学校 中井 将基	「教職員と地域や保護者との連携・協働ある学校づくり」 — 離島地域の課題克服と職員研修を通して —

第Ⅰ研究課題 第ⅠA分科会

「教育課程に関する課題」

研究主題 「特色ある学校づくりの推進と教頭の関わり」

—— IB教育でつなぐ学びと地域との連携を通して ——

香美市立香北中学校 五百蔵 紀子

Ⅰ 研究の概要

香美市は高知県の東部に位置し、旧土佐山田町、香北町、物部村が合併して誕生した。本研究の中学校区である香北町は、やなせたかし先生の幼少期の原風景とされる山間の自然豊かな地域である。

香北中学校区には、国際バカロレアプログラム（PYP）認定校である大宮小学校と国内唯一校区制をもつ国際バカロレアプログラム（MYP）認定校である香北中学校がある。香美市では、令和3年度から中学校区ごとに、「小中一貫グランドデザイン」を作成しており、本中学校区では、小中統一の学校教育目標「人間を大切にする ～自分らしく 自分で動き 探究する～」を柱とし、IB教育でつなぐ9年間の学びの実践に取り組んでいる。また、IB機構の認定校の規準として、「学校コミュニティ全体が、プログラムを理解し、責任をもって取り組む」ことを示している。すなわち、教職員、生徒、保護者、地域も一体となりIB教育を推進していくことが求められている。さらに、学習指導要領においても「社会に開かれた教育課程」を基本理念の一つとして挙げており、学校と地域との連携・協働を更に進めていくことが必然である。本校においても、学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして学校運営に取り組んでいる。

2 研究の内容

実践内容	教頭としての関わり
(1) 義務教育9年間をつなぐ小中一貫教育 ア 小中一貫グランドデザインを見据えた研究体制、授業改革の組織 イ 中学校区での小中合同研修、研究推進	○ 小中共通の学校教育目標の達成に向けた体制構築、系統的な教育課程の編成 ○ 研修の企画、連絡調整、運営、助言
(2) 小・中・地域との連携、協働 ア 学校運営協議会 イ 地域学校協働本部 ウ 行事等での地域との関わり	○ 組織編制、会の運営、連絡調整 ○ 組織編制、会の運営、連絡調整 コーディネーターとの連携、取組推進 ○ 地域人材、協力団体との連絡調整、運営 情報発信
(3) 成果と課題 ア 成果 イ 今後の課題	○ 成果の情報と課題の確認 ○ 今後の取組について

3 教頭としての今後の課題

- (1) 教員の異動が毎年ある中で、本中学校区の取組の成果や改善策を確実につなぐ仕組みづくり。
- (2) 地域とよりよい連携を図りながら、今後の取組をどう継続的、効果的につないでいくか、また保護者や地域の願いを受け止めながら、地域の教育資源をいかに教育課程に組み入れるか。

第Ⅰ研究課題 第ⅠA分科会

「教育課程に関する課題」

研究主題 「伊方町の良さを生かした、活力ある学校づくりを目指して」

—— 学校間交流・地域人材の活用を通して ——

伊方町立三崎小学校 加藤 知己

Ⅰ 研究の概要

伊方町では、「ふるさと愛いっぱいの人材（人財）が育つまちづくり」の実現を目指し、八つの教育基本方針を定めている。学校教育の重点施策の一つに、「特色があり活力のある学校づくりの推進」を掲げ、各校で実現に向けて取り組んでいる。しかし、伊方町は人口減少と少子化が進んでおり、町内小・中学校８校全てが小規模校である。少人数での活動となるため、意見の広がりや深まりに欠けるという弱みがあるが、小規模校だからこそ、顔が見える教育や他校との連携を行いやすいという強みがある。また、伊方町の３地域（伊方・瀬戸・三崎）全てに地域学校協働本部が配置されており、学校と地域のつなぎ役としての教育活動への支援体制も充実している。

そこで、この強みを生かしながら、教頭がコーディネーターとなり、次のような取組を行うこととした。

(1) 教頭会のネットワークを生かしたり、ＩＣＴを活用したりして、学校間交流を行う。

(2) 教頭が地域とのつなぎ役となり、地域人材を活用した学習や活動を取り入れる。

以上のような取組をより一層充実させることで、ふるさと愛いっぱいの児童生徒が育つ活力ある学校づくりができるのではないかと考え、本主題を設定した。

２ 研究の内容

実践内容	教頭としての関わり
(1) 実態把握	
ア アンケート調査の実施	○ 教員アンケートの作成、集計
イ アンケート結果の分析	○ 結果の分析、情報交換
(2) 具体的な取組	
ア 学校間交流（オンライン、行事等）	○ 学校間、地域との連絡調整
イ 地域人材の活用	○ 実践事例の共有
ウ 交流活動のデータや課題の共有	○ 児童生徒、教員の感想の集約、分析
	○ 交流活動のリスト作成と共有データの作成
(3) 成果と課題	
ア 成果	○ 成果と課題の確認
イ 今後の課題	○ 西宇和郡教頭会での情報共有

３ 教頭としての今後の課題

(1) 継続した取組を目指すとともに、教頭の負担軽減を図るために、どのような工夫を行うか。

(2) 学校間交流や地域との連携を更に進める上で、教頭としてどのような取組が必要か。

第Ⅰ研究課題 第ⅠB分科会

「教育課程に関する課題」

研究主題 「家庭・地域と協働した学校教育活動を推進するための教頭の役割」

—— 学校運営協議会と地域学校協働活動を通して ——

高松市立亀阜小学校 木田 英登

Ⅰ 研究の概要

現行学習指導要領には、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが重要だと示されている。よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、これからの子どもがどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにすればよいのかを、教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働により、その実現を図っていくことが求められている。

本校でも、学校経営方針の重点目標の一つに、「地域と協働の教育活動の推進」を挙げ、地域とともに、子どもの亀阜プライドを育み、みんなでつくる楽しい学校を目指している。子どもたちを取り巻く環境や学校課題が複雑化・多様化している今、学校と地域が子どもの健やかな成長に向けて、対等な立場で連携・協働する必要性を強く感じている。

また、次期学習指導要領に向けた中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会でも、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進、地域への愛着や子どもの主体的な社会参画について議論されている。

そこで、教頭として持続可能な学校と地域の連携・協働の推進と主体的に社会参画する子どもの育成に向けて、どのような実践を行っていく必要があるかを考察するため、本主題を設定した。

2 研究の内容

実 践 内 容	教頭としての関わり
(1) コミュニティ・スクールの取組 ア 学校運営協議会の運営 イ 地域学校協働活動の推進	○ 学校運営協議会の組織と連携 ○ 地域とのネットワークの構築
(2) 本校の具体的な取組 ア 地域を生かした特色ある教育活動 イ 地域と教職員、地域と子どもの懇談会	○ カリキュラムの見直し提案、助言 ○ 地域関係者との連絡・調整
(3) 成果と課題 ア 成果 イ 今後の課題	○ 成果と課題の共有 ○ 今後の取組について

3 教頭としての今後の課題

- (1) 教頭として、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、どのようにカリキュラムの編成、実施、評価に関わるか。
- (2) 主体的に社会参画する子どもの育成に向けて、子どもの地域への思いと地域の思いの共有化を図るとともに、子どもが当事者として成功体験を味わえる教育活動の実現に教頭として何ができるか。

第Ⅰ研究課題 第ⅠＢ分科会

「教育課程に関する課題」

研究主題 「家庭・地域との連携及び協働における教頭の役割」

—— 特色ある地域資源の活用や異校種間連携の取組を通して ——

伊予市立中山中学校 中塚 秀樹

Ⅰ 研究の概要

予測困難な急激な社会の変化と想像もつかない急速な技術革新、今後益々多様化する時代に、学校が抱える課題も複雑化・困難化し、学校の工夫だけでは乗り越えられない現実が迫ってきている。「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、「よりよい教育課程を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、子供たちに必要な資質・能力を育成するための教育内容を明確にしながら、家庭・地域と連携・協働していくことが大切である。

そこで、伊予地区教頭会では、「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、児童生徒が社会を生き抜く力を身に付けられるよう、研究の３年目となる今年度も持続可能な体制づくりや家庭・地域との連携推進及び協働に、教頭としてどのように関わっていけばよいのかを考察することで研究を深めたい。そして、その際、昨年度までの取組の課題である、特色ある地域資源の活用や異校種間連携の取組に焦点を当て、本研究を進めていく。

２ 研究の内容

実 践 内 容	教頭としての関わり
(1) 伊予地区各小・中学校の取組の把握 ア アンケートの実施による実態把握 イ 持続可能な体制づくりに関する情報共有	○ 調査内容の検討と実態把握 ○ 教頭会での実践発表・情報交換
(2) 具体的な取組 ア 特色ある地域資源を活用した活動の取組 イ 異校種間連携の取組	○ 学校・家庭・地域の願いや思いを把握 ○ 特色ある学習活動や行事等の企画・運営
(3) 研究のまとめ ア 成果 イ 今後の課題	○ 成果の情報共有と課題の確認 ○ 今後の取組について

３ 教頭としての今後の課題

- (1) 「社会に開かれた教育課程」を編成、実施、評価するために、教頭としてどのように関わるか。
- (2) 特色ある地域資源を活用するために、教頭としてどのように関わるか。

第2研究課題 第2分科会

「子供の発達に関する課題」

研究主題 「自立へ向かう子どもを育てる学校づくり」

—— 子どもに関わる環境や人をつなぐ教頭の役割 ——

まんのう町立満濃中学校 岡原 秀和

1 研究の概要

まんのう町には、こども園6園、小学校6校、中学校1校が設置されている。町学校教育実践指針において、未来を切り拓く子どもを育てる学校づくり（一人ひとりの子どもが安心して楽しく過ごせる学校づくりに努めること、「主体的・対話的で深い学び」に向かう授業づくりを推進すること、学校と家庭と地域が連携して子育てにあたること）を重点目標としている。

年々、児童生徒が抱える課題も多様化しており、多様な他者と協働する様々な活動において合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにするためには、これまで以上に丁寧で細やかな指導や支援が必要不可欠である。そこで、小学校と中学校がつながり、一体となって自立へ向かう教育を実践するためには、教頭の役割が大きな課題であると考え、本主題を設定した。子ども一人ひとりにとって居心地のよい場所や、自分を輝かせる出番をつくるために、教頭として、どこ（学校内外の環境）と、誰（教師・保護者・地域の人など）と、どうつなげていけばよいかについて探る。

2 研究の内容

実践内容	教頭としての関わり
(1) 新入生のスムーズな接続 ア 小学6年生の中学校訪問 イ 中学校入学後の新入生情報交換	○ 校則の説明、校舎案内 ○ 小学校との連絡、調整
(2) 生徒の居場所や出番づくり ア 校則の改定、新制服の導入 イ 不登校生徒への対応 ウ 特別な配慮を要する生徒への対応 エ 地域との交流 オ 国際理解教育の推進	○ 生徒企画委員会への参加、指導 ○ 小学校との連絡、調整 ○ 関係教職員、町内機関との連絡、調整 ○ 関係教職員、町内外機関との連絡、調整 ○ 公民館長、担当教職員との連絡、調整 ○ 教職員の強みを生かせる場の設定
(3) 成果と課題 ア 成果 イ 今後の課題	○ 担当教職員との振り返り ○ 教頭会での共有

3 教頭としての今後の課題

- (1) 今後も継続して、生徒が地域で活躍する場を設定したいと考えているが、担当教職員の働き方改革の観点からも配慮しながら、教頭としてどのように仕組みをつくるか。
- (2) 組織としての指導力を向上させるために、教頭としてどのように取り組むか。教職員個人によってばらつきのある意識をそろえる（高める）ために、教頭としてどのように関わるか。

第2研究課題 第2分科会

「子供の発達に関する課題」

研究主題 「教頭の視点による子供のウェルビーイングを支える教育アプローチ」

—— 健康・体力の増進と家庭・地域との連携 ——

松野町立松野西小学校 廣岡 哲也

1 研究の概要

現代の子供たちは、外遊びの減少や教育環境の変化などといった課題に直面し、自己肯定感の低下や失敗への不安を抱える傾向が見られる。北宇和郡でも同様の課題があり、子供たちが安心して挑戦できる環境づくりが求められている。

こうした背景を踏まえ、北宇和郡教頭会では、教頭として学校教育の中で子供たちの心身の健やかな成長を支える取組を推進してきた。WHOが提唱する「健康」の概念と文部科学省が示す「ウェルビーイング」の考え方を基に、体力・健康増進を「身体面」「心情面」「協調性」の三つの視点から総合的に捉え、運動習慣や食生活の改善、非認知能力の育成、仲間との協働活動などを通じて、子供たちの主体性と協調性を育てている。

これらの取組を進めるにあたり、学校間や地域・保護者・関係諸機関との「つながり」を意識し、連携体制の構築と情報共有を図ってきた。各校の実践を共有しながら共通理解を深め、地域資源を活用した学びや活動の調整を行い、学校教育と地域社会の融合を目指している。

このような連携を基盤として、子供たちのウェルビーイング向上に向けて、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を推進しながら、研究を進めた。

2 研究の内容

実 践 内 容	教頭としての関わり
(1) 北宇和郡児童生徒の実態把握調査 ア アンケートの実施 イ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 質問紙調査の分析	○ 内容の検討と結果の集計・分析 ○ 実態把握と共有及び教育活動への反映 ○ 教職員、家庭や地域への情報発信
(2) 具体的な取組 ア 学校におけるウェルビーイングの育成 イ 家庭とともに育むウェルビーイング ウ 地域と連携したウェルビーイング推進	○ 学習教育活動等の企画・運営のサポート ○ 進捗状況の確認と情報発信 ○ 地域関係者・関係機関との連絡調整
(3) 成果と課題 ア 成果 イ 今後の課題	○ 成果の情報共有と課題の確認 ○ 今後の取組の確認と研究継続推進の構築

3 教頭としての今後の課題

- (1) 家庭や地域との連携を深め、児童生徒の健やかな成長を支える環境づくりを、教頭としてどのように整備・推進していくか。
- (2) 教頭会としての実践事例や成果を共有し、郡全体の学校に広げていくために、教頭としてどのように働き掛けていくか。

第3研究課題 第3分科会

「教育環境整備に関する課題」

研究主題 「地域との連携・協働推進に向けた教頭会としての役割」

—— 地域課題の解決に向けた教育環境体制づくり ——

吉野川市立鴨島第一中学校 小泉 博嗣

1 研究の概要

近年、全国的に人口減少と高齢化が進む中、「消滅可能性自治体」という言葉が注目を集めている。吉野川市はその自治体に指定されており、この問題の解決は急務である。地域の持続可能性を高める解決策を考える上で、教育が果たす役割は大きい。学校において、地域に対する愛着や誇りを持ち、将来地域の担い手となる子どもを育む教育は、必要不可欠である。このような教育は、学校だけでなく、地域と連携した教育環境の中で進めることにより、教育効果の高い学びになると考える。学校と地域が連携した教育環境体制づくりは、教頭の役割だと考え、これからも努めていきたい。

本研究では、吉野川市中学校教頭会、吉野川市小中学校教頭会で、これまでの学校と地域が連携した取組を整理し、情報共有を行い、精査する取組を行った。このことにより、各校が地域連携した教育環境体制づくりに向けた指針を見いだすことができた。各校で実践している教育活動の改善に向け、有効な手立てとして生かすことができると考え、本主題を設定し、研究を進めてきた。

2 研究の内容

実 践 内 容	教頭としての関わり
(1) 吉野川市中学校教頭会の取組 ア 本市の地域課題の共有 イ 各中学校での取組の情報交換	○ 本市が抱える課題の把握、確認 ○ 各校の取組を情報共有できる体制づくり
(2) 吉野川市小中学校教頭会の取組 ア 学校運営協議会に関する研修 イ 市内共有フォルダの活用	○ 先進的な取組事例から各校の取組の見直し、検討 ○ 地域連携・CS等情報共有フォルダを作成し、資料を活用できる体制づくり
(3) 成果と課題 ア 成果 イ 今後の課題	○ 他校の取組を受けて各校の改善した取組 ○ 必要な情報を容易に入手できる利便性 ○ 小学校教頭会との情報共有、連携の工夫と改善

3 教頭としての今後の課題

- (1) 吉野川市小学校教頭会との情報共有、連携の工夫や改善にどう取り組むか。
- (2) 学校の統合が進み、学校区の広域化による地域とのつながりが希薄化、困難化が懸念される今後、地域と連携した教育環境づくりに向けて、どのような取組が必要となるか。

第3研究課題 第3分科会

「教育環境整備に関する課題」

研究主題 「安心・安全な教育環境の整備と対応の充実を図るための教頭の役割」

—— 大洲市教頭会の取組を通して ——

大洲市立平小学校 宮田 博和

1 研究の概要

大洲市は、平成30年7月豪雨を踏まえて、児童が自助・共助の力を確実に習得できるように、学校防災教育の充実に努めている。

令和6年4月に豊後水道が震源となった地震では、大洲市でも震度5弱が計測された。幸い大きな被害に見舞われなかったが、深夜に起こったこともあり、即時対応や学校施設をはじめ校区内の安全確認が困難であったことが課題として明確になった。さらに、南海トラフ地震が今後30年以内に発生する確率が70%を越えていることや、大洲市が水害の起こりやすい地域であることを踏まえると、即時に適切な対応ができる体制を整えていくことは喫緊の課題である。また、大洲市では、地域住民や保護者が参画する教育活動が多く設けられており、各校で地域に根差した教育が進められている。しかし、来校者の確認や防犯体制については、地域の実情に合わせた対応が必要であり、その対応は、多種多様である。そのため、教頭は赴任時から、地域の実態と危機管理体制を早急に把握する必要がある。

このような課題を踏まえ、各校の実践や対応を生かし、大洲市教頭会としての体制づくりを行うとともに、危機管理マニュアルや対策を共有し、各教頭が安心・安全な教育環境の整備と対応の充実を図る役割を果たすようにしたいと考え、本主題を設定した。

2 研究の内容

実 践 内 容	教頭としての関わり
(1) 大洲市小中学校の取組	
ア 各校の実態把握と課題の共有	○ アンケート調査
イ 危機管理マニュアル大洲市版の作成	○ 市内各校の危機管理マニュアルの精査
ウ 訓練の実施内容の共有	○ 危機管理マニュアル大洲市版及び携帯版作成
エ 各校実践の共有と情報交換	○ 各校での実践の推進と内容の共有
	○ 各種訓練計画のデータバンク化
	○ 地域や関係機関との連携
(2) 成果と課題	
ア 成果	○ 大洲市教頭会での成果と課題の共有
イ 今後の課題	○ 大洲市教頭会における今後の取組

3 教頭としての今後の課題

(1) 今後も安心・安全な教育環境の整備と対応の充実を図るために大洲市教頭会として持続可能な体制を構築しなければならない。

(2) 教頭として教職員全員の防災意識を高めるための研修等の在り方を模索していきたい。

第4研究課題 第4分科会

「組織・運営に関する課題」

研究主題 「魅力ある学校づくりのための幼小連携」

—— 子供の育ちと学びをつなぐ ——

阿南市立見能林小学校 久龍 和巳

1 研究の概要

将来大人になったときに、変化の激しい時代を生き抜かなくてはならない子供のため、一人一人に高い資質・能力をしっかりと育成し、それぞれのウェルビーイングを実現していくことが求められている。

子供は、幼児期に生涯にわたる重要な資質・能力を培う。それを小学校でも更に伸ばしていけるように、阿南市全体で幼小連携の推進に取り組んだ。本校の取組としては、まず、メンター研修を幼小合同で行うことで教員同士がつながった。そして、幼児と小学生の交流を実施し、子供同士をつなげた。また、幼稚園保護者との座談会を行い、保護者ともつながった。さらに、幼児の多様な背景を知るために、市のこども支援課等ともつながった。このように、様々なつながりを通して一人一人の子供の育ちと学びを理解し、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することで、子供たちが安心して通い、主体的に自己を発揮できる魅力ある学校づくりを目指した。

2 研究の内容

実践内容	教頭としての関わり
(1) 阿南市小学校の取組 ア 夏季研修会の実施 イ 取組アンケートの実施と情報共有	○ 夏季研修会の内容を各校で伝達 ○ アンケートの実施と情報共有
(2) 本校の取組 ア 幼稚園との合同研修会 イ 幼児と児童の交流 ウ 幼稚園保護者との座談会 エ 新入生連絡協議会 オ カリキュラムの作成	○ メンターリーダー・幼稚園との連絡調整 ○ 各幼稚園・本校担任との日程調整 ○ 幼稚園保護者向けの講演・座談会の実施 ○ 関係諸機関との連絡調整・連携 ○ 1年生担任・幼稚園との協議
(3) 成果と課題 ア 成果 イ 今後の課題	○ 幼小連携の重要性の共有 円滑な接続のための連絡調整 ○ 持続的な仕組みづくり 市全体での取組への発展

3 教頭としての今後の課題

- (1) 幼小連携・接続の取組について、持続的に改善・発展させる仕組みにするためにどう取り組むか。
- (2) どの園にいても、どの小学校に行っても同じような幼小連携・接続が保証されるために、阿南市全体としてどう取り組むか。

第4研究課題 第4分科会

「組織・運営に関する課題」

研究主題 「『未来を切り拓く力を育む魅力ある学校づくり』を目指した
学校組織の運営と教職員のウェルビーイングの向上」
—— 働きがいがあり、誇りを持って児童生徒に向き合える職場環境の形成 ——

西条市立丹原西中学校 戸田 行宣

1 研究の概要

西条市小中教頭会（小学校24校、中学校10校、合計34校）では、教頭としての資質・能力の向上を目指して、年間を通じて協議や研修を行っている。各小・中学校間で連携を図りながら、教頭として学校の組織・運営に関する課題を明確にし、市教育委員会に指導・助言をいただきながら、研究実践に取り組んでいる。

西条市では、教育基本方針の一つに「特色ある学校づくりの推進と教職員のウェルビーイングの向上」を掲げ、教職員の資質能力の向上を進めるとともに、働きがいがあり、誇りを持って児童生徒に向き合える職場環境の形成を図っている。また、令和6年度からは全ての小・中学校がコミュニティ・スクールになり、学校と地域が連携しながら学校運営に取り組むことを目指している。

市の教育基本方針を具現化するために、各校の現状を踏まえ、魅力ある学校づくりを推進していく上で教頭の役割について研究と実践を行った。特に、教職員一人一人や組織への効果的な働き掛け、そしてコミュニティ・スクールの取組等、具体的な事例や情報を共有しながら研究を深めた。

2 研究の内容

実 践 内 容	教頭としての関わり
(1) 西条市教頭会の取組 ア 教頭会の組織的研究 イ 教頭会での研修・情報交換	○ 過年度の成果と課題の分析 ○ 教頭会での実践報告・情報交換
(2) 魅力ある学校づくり（西条市の取組） ア 「学びの文化」の醸成 イ 「働き方改革」への取組 ウ 「コミュニティ・スクール」の活用	○ 校内体制の構築 ○ 教職員への指導・助言 ○ 地域・関係諸機関との連携
(3) 成果と課題 ア 成果 イ 今後の課題	○ 成果と課題の共有 ○ 次年度の計画作成と推進体制の確立

3 教頭としての今後の課題

- (1) 魅力ある学校づくりを推進していくためのPDCAサイクルの確立を図っていくこと。
- (2) 業務改善に継続して取り組み、働きやすさと働きがいの両立を図っていくこと。

第5研究課題 第5分科会 「教職員の専門性に関する課題」

研究主題 「協働体制の構築と教頭の役割」

—— 支え合い、学び合う学校を目指して ——

高知市立江ノ口小学校 岡崎 真理子

1 研究の概要

未来を切り拓く魅力ある学校づくりを目指すためには、教員一人ひとりが自らの資質能力の向上を目指し専門性を高めようとしていく学校文化の醸成に組織的に取り組む必要がある。そのために教頭は、教職員の意欲の喚起や資質・能力の向上に力を注ぎ、学校教育の活性化と変革を目指していかなければならない。

しかしながら、どの学校も現状として、教員の年齢層の二極化、教員の人材不足、長時間勤務の是正などの課題が山積している。また、新しい時代に向けた持続可能な教育活動・学校運営体制を構築するため、学校における働き方改革の着実な具現化に取り組むことも重要である。

そこで、高知市教頭会第Ⅰグループでは、それぞれの学校の課題を踏まえ、学校の特色を生かしながら、教員の資質向上を図るための有機的な組織運営や体制づくりの在り方と教頭の役割について研究を進めることにした。教職員からのボトムアップの促進による校内研修の活性化やミドルリーダーの育成に向けての取組を活性化させることにより、協働体制が構築され、教職員の意欲の向上や学校参画意識の向上につながるであろうと考え、本主題を設定した。

2 研究の内容

実 践 内 容	教頭としての関わり
(1) 江ノ口小学校・久重小学校の取組から ア 三部会の活性化 イ 教頭の役割	○ 研究内容の確認・助言 ○ 部長へのサポートと意欲の向上
(2) 他校の実践事例の紹介 ア メンターチーム会の実施 イ 教育相談講座の開設 ウ 教科主任会の実施	○ メンター長との連携 ○ 研究部との連携 ○ 教科主任との連携
(3) 成果と課題 ア 成果 イ 今後の課題	○ ミドルリーダーを中心とした協働体制の構築 ○ 効果的な業務の見直しの工夫

3 教頭としての今後の課題

- (1) ミドルリーダーを中心とした教職員間の連携の促進や若年教員の育成に向けて、更に成果をあげるために教頭としてどのような働き掛けが必要か。
- (2) ミドルリーダーの多忙感を解消するために、業務の改善や効率化に向けて、教頭としてどのように働き掛けるか。

第5研究課題 第5分科会 「教職員の専門性に関する課題」

研究主題 「教職員と地域や保護者との連携・協働ある学校づくり」

—— 離島地域の課題克服と職員研修を通して ——

上島町立岩城中学校 中井 将基

1 研究の概要

上島町は県内唯一の離島で構成された自治体で、小学校4校、中学校3校の計7校がある。令和元年度から弓削、生名、岩城、魚島の4地区で学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして歩んでいる。また、各小中学校ではPTA活動も積極的に行っている。しかしながら、家庭数（児童生徒数）の減少や高齢化が加速し、学校運営協議会やPTA活動のメンバーに代わりが少なく、議題や活動の広がりが困難になっている。また、教職員の短い期間での人事異動が多く、経験年数の少ない教職員が重要な校務を担うこともあり、地域との協働活動にも影響が出ている。

そこで、より地域や保護者との連携・協働のある学校づくりに向けて、教頭として学校運営の体制づくりや教職員の職務意識の高揚につながる関わりについてどのような取組ができるか、研究と実践を行った。

2 研究の内容

実 践 内 容	教頭としての関わり
(1) 上島町小中学校の取組	
ア CSやPTA活動、統廃合の状況	○ 上島町教頭会での情報共有
イ ICT活用と交流活動や授業の状況	○ 教務主任会や他校との連携
(2) 具体的な取組	
ア 校内研修や初任者指導の充実	○ 校内研修体制のマネジメント
イ CSやPTA活動を通じた学校行事や見直した取組	○ 地域協力者との連携・協働
(3) 成果と課題	
ア 成果	○ 上島町教頭会での成果と課題の共有
イ 今後の課題	○ 地域との連携・協力

3 教頭としての今後の課題

- (1) 地域や保護者との連携・協働を図るためには、教頭としてどのような関わりや働き掛けをすればよいのか。
- (2) 若年教職員の活動に広がりを持たせたり、新たな人材を確保したりするために、どのような取組ができるか。

特別課題分科会 (講演)

演題

「学校と地域の絆が子どもと地域の未来を創る」 ～ これからの学校と地域 ～



■ 講師

一般社団法人コミスクえひめ代表理事
元文部科学省CSマイスター

にしむら くにお
西村 久仁夫 氏

【略歴】

- 一般社団法人コミスクえひめ代表理事
- 元文部科学省CSマイスター
- 愛媛県教育委員会CSアドバイザー
- 宇和島市教育委員会教育推進員
- 宇和島市教育委員会統括コーディネーター
- 元宇和島市立吉田中学校長

【プロフィール】

平成25年度に愛媛県で初めて「コミュニティ・スクール」を導入し、文部科学省の「コミュニティ・スクール推進員(CSマイスター)」として活躍。

平成30年7月に西日本豪雨災害を校長として体験。校長を務めていた宇和島市立吉田中学校では、校舎が約1.5メートル浸水するなど、大きな被害が出た。災害直後から避難所運営に当たり、人道的立場から被災者支援にあたる。吉田中学校でも、赴任した平成28年度に「コミュニティ・スクール」を導入。被災後の復旧に、「コミュニティ・スクール」が機能した。

これらの経験から平成31年4月一般社団法人「コミスクえひめ」を立ち上げ、子どもたちの明るい未来と活力ある地域社会を創るため、学校と地域の思いをつないで、強い絆を築く活動に取り組んでいる。

メモ